

2020年度

慶應義塾大学入学試験問題

文 学 部

地理歴史
(日本史)

- 注 意
1. 受験番号(2か所)と氏名は、所定欄に必ず記入してください。
受験番号は、所定欄の枠内に一字一字記入してください。
 2. 解答は、必ず解答用紙の指定の箇所に記入してください。
 3. 解答用紙は、必ず机の上に残しておいてください。
 4. この問題冊子は、表紙を含めて7ページあります。試験開始の合図とともに全てのページが揃っているかどうかを確認してください。ページが抜けていたり、重複していたりする場合には、直ちに監督者に申し出てください。

解答は別紙の解答欄に記入しなさい。

I 次の文章（イ）～（ニ）を読んで、文中の空欄（A）～（N）に該当する適切な語句をそれぞれの語群の中から選び、1～9の数字を、語群の中に適切な語句がない場合は0を、解答欄（解答用紙の右上）に記入しなさい。

（イ） 日本からの（ A ）派遣が低調になる9世紀の東シナ海では、朝鮮半島の（ B ）の海商が活躍するようになった。山門派の祖となる（ C ）は838年の（ A ）船で渡航したが、帰路は彼らの船に便乗したことを、その旅の日記（ D ）に記している。彼らが中国に築いた拠点、本国の（ B ）が滅亡する10世紀まで存続した。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|------------|------|
| 1 高麗 | 2 円珍 | 3 円仁 | 4 喬然 | 5 新羅 |
| 6 遣唐使 | 7 遣隋使 | 8 行歴記 | 9 入唐求法巡礼行記 | |

（ロ） その後、東アジアの海上貿易を専ら担うことになるのが、中国の宋の海商である。大宰府から15kmの海岸に設けられ、かつては（ A ）の発着拠点でもあった（ E ）に來航して日本と交易したが、その廃絶後、2km東にチャイナタウンを築く。これが中世日本最大の貿易港として発展していったのが（ F ）である。日宋貿易と言えば平清盛が有名だが、実際のところ平氏による貿易管理・経営の徴証は乏しく、清盛が修築した摂津の（ G ）まで中国の船が來た事例も多くはない。

- | | | | | |
|------|------|-------|---------|--------|
| 1 博多 | 2 坊津 | 3 大野城 | 4 鴻臚館 | 5 大輪田泊 |
| 6 福岡 | 7 水城 | 8 難波津 | 9 音戸の瀬戸 | |

（ハ） 宋を滅ぼして中国全土を制圧した（ H ）は、日本やベトナムに侵攻を試みる一方で、その日本を含めて対外貿易には積極的であった。1323年に（ H ）から日本に向かう途中で沈んだ貿易船が、朝鮮半島西南の（ I ）沖で見つかっている。しかし、（ H ）を倒した明は（ J ）政策をとって民間貿易を禁止する。建国当初は（ K ）の禁圧を条件に日本からの遣使を受け入れたが、実際には取り締まりが行われず被害が減少しなかったことから、1386年には日本との国交を断つに至った。

- | | | | | |
|-----|------|------|------|-------|
| 1 元 | 2 珍島 | 3 新安 | 4 悪党 | 5 江華島 |
| 6 金 | 7 海禁 | 8 鎖国 | 9 倭寇 | |

(二) 帝位をめぐる内乱中の明に (F) 商人の (L) らを遣した (M) は、1402年、建文帝を滅ぼして即位した永楽帝から日本国王に封ぜられ、(N) 百枚を得た。(N) はしばしば誤解されているような木製の割り符ではなく、一〜百号の番号を割り書きして割印を捺した大判の用紙で、これを用いて作成した国書を持参した者が日本国王の正式の使者であることを証明する役割を果たした。(N) は日本より先に東南アジア諸国に与えられており、(K) 対策というのも実は誤りである。

- | | | | | |
|--------|------|-------|--------|--------|
| 1 祖阿 | 2 肥富 | 3 割り符 | 4 足利義教 | 5 足利義満 |
| 6 島井宗室 | 7 勘合 | 8 通信符 | 9 足利義持 | |

II 次の文章 (イ) ~ (ハ) を読んで、文中の空欄 (A) ~ (T) に該当する適当な語句をそれぞれの語群の中から選び、1 ~ 5 の数字を解答欄に記入しなさい。

(イ) (A) 年、オランダ船リーフデ号が (B) に漂着した。徳川家康は、この船の航海士とともに水先案内役の (C) 人三浦按針を江戸に招き、外交・貿易の顧問とした。当時、オランダと (C) は東インド会社を設立してアジア進出を図っていたが、両国は幕府から貿易の許可を受け、(D) に商館を開いた。一方、1609年、ルソンの前総督ドン＝ロドリゴらが上総に漂着し、翌年に家康は彼らに船を与えて (E) に送ったが、この時に家康は通商を求めて京都の商人 (F) を派遣した。

- | | | | | |
|------------|----------|--------|---------|---------|
| A 1 1598 | 2 1600 | 3 1602 | 4 1604 | 5 1606 |
| B 1 豊後 | 2 薩摩 | 3 大隅 | 4 肥前 | 5 土佐 |
| C 1 ポルトガル | 2 スペイン | 3 イギリス | 4 イタリア | 5 フランス |
| D 1 博多 | 2 府内 | 3 天草 | 4 出島 | 5 平戸 |
| E 1 マニラ | 2 マカオ | 3 リスボン | 4 ノビスパン | 5 マドリード |
| F 1 納屋助左衛門 | 2 末吉孫左衛門 | 3 田中勝介 | 4 河村瑞賢 | 5 末次平蔵 |

(ロ) 18世紀の日本では、対外関係に制約されながらも、西洋の学術・知識の受容が進んだ。新井白石は、屋久島に潜入して捕えられた宣教師 (G) を尋問し、それにより得た知識をもとに『(H)』を著した。高松藩の足軽の家に生まれた (I) は、長崎で学んだ科学の知識をもとに物理学を研究した。医学分野では『解体新書』が有名だが、津山藩医の (J) がオランダの医学書を訳して『(K)』を著したことも注目される。一方、ロシアの南下を契機に地理研究が活発化した。(L) 藩医の工藤平助の『赤蝦夷風説考』を踏まえた田沼意次は1785年に蝦夷地調査団を派遣したが、その一行には出羽の農家出身の (M) も含まれていた。

G	1	シドッチ	2	ヴァリニャーニ	3	オルガンティノ	4	ケンペル	5	クルムス
H	1	草茅危言	2	翁問答	3	宇下人言	4	西洋事情	5	西洋紀聞
I	1	西川如見	2	平賀源内	3	手島堵庵	4	山片蟠桃	5	富永仲基
J	1	稲村三伯	2	大槻玄沢	3	宇田川玄随	4	山脇東洋	5	野呂元丈
K	1	蘭学階梯	2	解剖図譜	3	ハルマ和解	4	西説内科撰要	5	蔵志
L	1	会津	2	仙台	3	盛岡	4	弘前	5	松前
M	1	最上徳内	2	間宮林蔵	3	高田屋嘉兵衛	4	大黒屋光太夫	5	近藤重蔵

(ハ) 19世紀に入ると、ロシア船以外の欧米の船舶も日本近海に出没する。幕府は (N) 年に東蝦夷地を永久の直轄地とし、そこに住むアイヌを和人とした。また、ロシア使節 (O) の来航時には冷淡に対応してこれを追い返したため、ロシア船は樺太や択捉島を攻撃した。これに衝撃を受けた幕府は、松前藩と蝦夷地を全て直轄地とした。フェートン号の長崎侵入に際しては、長崎奉行 (P) が責任を取って自刃している。(Q) 年に幕府は無二念打払令を出し、(R) 年にはモリソン号が砲撃された。一方、長崎郊外に診療所や私塾を設立して (S) らの人材を育てたオランダ商館医シーボルトは、帰国に際し日本地図を所持していたため追放処分を受け、これを渡した (T) らも処罰された。

N	1	1800	2	1802	3	1804	4	1806	5	1808
O	1	ゴローニン	2	ラクスマン	3	ベーリング	4	プチャーチン	5	レザノフ
P	1	遠山景晋	2	遠山景元	3	鍋島斉直	4	佐野政言	5	松平康英
Q	1	1810	2	1815	3	1820	4	1825	5	1830
R	1	1831	2	1833	3	1835	4	1837	5	1839
S	1	本多利明	2	海保青陵	3	高野長英	4	大田南畝	5	司馬江漢
T	1	高橋景保	2	高橋至時	3	志筑忠雄	4	渋川春海	5	伊能忠敬

Ⅲ 次の文章の空欄 (A) ~ (H) に該当する適当な語句を記入しなさい。

5世紀から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力が地方へ展開すると、服属した地方豪族は (A) に任ぜられた。彼らは、従来からの地方の支配権を保証される一方、ヤマト政権の直轄地である (B) や、直轄民である名代・子代の管理、子女を (C) や采女として大王のもとに出仕させるなどの義務を負った。その後、大化以後に行政区分の設定が進み、大宝・養老律令制下になると、(A) は (D) に優先的に任命され、地方支配の担い手へと編成されていった。上位の行政区分の官人で中央から派遣される (E) とは異なり、(D) が任期のない官であったことは、国家的支配の遂行に伝統的な地方豪族の力を活用する意図があったことを示している。また (D) の行政の拠点である (F) には、役所群や居館のほか、正税などを収めた倉である (G) や、凶作などへの対策として徴収した粟を備蓄する (H) も設置されて地域社会の再生産を保證するなど、地域と密接に関わる存在であった。

IV 次の史料(イ)～(ホ)を読んで設問に答えなさい。

(イ) 家は、九重の御門、二条宮居、一条もよし。a 染殿の宮、清和院、菅原の院。冷泉院、閑院、朱雀院。小野宮、紅梅、県の井戸。竹三条、小八条、小一条。

(ロ) 今、国史及び諸の人の別伝等を検するに、異相往生せる者あり。兼てまた故老に訪ひて都廬^{すべて}四十余人を得たり。予、感歎^{ふくよう}伏膺^なして聊に操行を記し、号づけて(A)と曰ふ。

(ハ) 夫れ往生極樂の教行は、濁^{じよくせ}世末代^{もくそく}の目足^{めあし}なり。道俗貴賤、誰か帰せざる者あらんや。但し顕密^{きやうみつ}の教法^{きやうほう}は、其文一に非ず。事理の業因^{ごういん}は、其の行惟れ多し。利智精進^{りちしやうじん}の人は、未だ難しとなさざるも、予^よの如き頑魯^{がんろ}の者、豈敢てせんや。是の故に(B)の一門によりて、聊か経論の要文を集む。之を披き之を修せば、覺り易く行ひ易からん。

(ニ) 京極殿、(C)など見るこそ、心ざし留まり、事変じにけるさまはあはれなれ。御堂殿^{みどうどの}造り磨かせ給て、庄園多く寄せられ、我族のみ御門^{うしろみ}の御後見^{ごごみ}、世のかためにて、行末までとおぼしをきし時、いかならむ世にも、かばかりあせはてんとおぼしけんや。

(ホ) やまと歌は、人の心を種として、万の言の葉とぞ成れりける。……万の^{まつりごと}政^{まつりごと}を聞き召す暇、もろもろの事を、捨て給はぬ余りに、古^{いにしへ}の事をも忘れじ、古^{いにしへ}りにし事をも興し給ふとて、今も見そなはし、後の世にも伝はれとて、延喜五年四月十八日に、大内記紀友則、御書所預紀貫之、前甲斐少目官凡河内躬恒、右衛門府生壬生忠岑らに仰せられて、(D)に入らぬ古き歌、自らのをも、奉らしめ給ひてなむ。

(原文を一部修正)

注 異相往生：往生のとき奇瑞などを示すこと 伏膺：心にとどめて忘れないこと
操行：正しい行状 濁世末代：にぎり果てた末法の世 目足：道標 頑魯：おろか

問1 史料の空欄(A)～(D)に当てはまる適当な語句を記しなさい。(A)は日本最初の往生伝、(B)は仏を心の中で祈り、その名号を口に唱えること、(C)は下線cの人物が建立した寺院、(D)は759年までの歌、約4500首を収録した歌集の名称がそれぞれ入る。

問2 史料(イ)は、一条天皇の皇后定子に仕えた人物が、かなを用いて記した作品である。その名称を記しなさい。

問3 史料(イ)の下線aは、臣下で初めて摂政となった人物の邸宅の名称でもある。その人物名を記しなさい。

問4 史料(ロ)に往生者の一人として記され、「市聖」と呼ばれた僧侶が開創した西光寺の後身で、その僧の木像が所蔵されている寺院の名称を記しなさい。

